

第4回建設トップランナーフォーラム

2日間で延べ650人が参加

環境ビジネスなど事例紹介

新事業や新分野への進出に挑戦する建設業者が自らの取り組みを発表する第4回建設トップラン

ナーフォーラムが、7月23・24日に港区の建築会館で開かれ、2日間で延べ約650人が参加した。建設企業が取り組む

挑戦など、具体事例を基にしたミニフォーラムも開き、会場の参加者も巻き込んで活発な意見が交わされた。

地域再生事業や環境ビジネスなどの事例のほか、建設業の農業参入をテーマにしたアグリビジネスなど計27事例を、全国の「トップランナー」たちが紹介。さらに、林業者と建設業者のコラボレーションによる森林再生の



米田慶大教授

その後、全体フォーラムとして廃木材のリサイクルや介護ビジネスへの参入のほか、三宅島に自生する「サルトリイバラ」を活用した島興しなど、

初日の23日は、金子一義国土交通大臣と太田昭宏公明党代表が来賓として参加。各企業の取り組みに敬意を表すとともに、国としても引き続き支援していく考えを示した。

五つの事例を各社の代表者が発表した。

2日目の24日は3会場に分かれ、ワークショップ形式で、アグリビジネス、環境・新技術、地域再生、環境・森林再生の計22事例を紹介。国土交通省や農林水産省などが招いたアドバイザーが感想やアドバイスを述べた。

事例発表の終了後には、国土技術研究センターの大石久和理事長が講演した。大石理事長は災害の多い日本の国土を「脆弱(ぜいじやく)列島」と表現。雇用を維持し、災害から地域を守るため、積極的に公共投資をすべきと訴えた。さらに、地方の活性化や雇用の創出に貢献するフォーラム参加企業の取り組みにエールを送った。

最後に、建設トップランナーフォーラム顧問の米田雅子慶応大学教授が総括講演。今回で最終回を迎えた建設トップランナーフォーラム全国大会の活動を振り返るとともに、ボランティアと

してフォーラムを支えてきた組織を「建設トップランナー倶楽部」として継続し、メール配信による情報交換などを通じ、引き続き地域建設業を支援していく考えを述べた。